

未来を担う子ども達のために
“育てよう 生きる力” “とどけよう 笑顔と元気”

第2回 B&G 全国指導者会 総会

平成25年

1月26日(土)

第2回総会

14:00～ 笹川記念会館 2F 国際会議場

1. オープニング
2. 開会宣言
3. 主催者挨拶
B&G 財団 会長 梶田 功
B&G 全国指導者会 会長 工藤 祐直
4. 来賓祝辞
B&G 全国サミット 会長 新潟県胎内市長 吉田 和夫 様
B&G 全国教育長会議 会長 栃木県那須烏山市教育長 池澤 進 様
B&G 財団 評議員 岸 ユキ 様
5. 応援メッセージ
B&G 財団 理事 重 由美子 様
B&G 財団 理事 中村 真衣 様
6. 来賓紹介・祝電披露
7. 全国指導者会 議案審議および諸報告
報告事項 3年間の事業報告・規則の一部改正について
議案1 役員の選任について
議案2 今後の活動方針・活動目標【案】の承認について
8. 「優良指導員」ならびに「優良指導者会」褒賞
9. 感謝状贈呈
10. シンボルマーク 優秀作品表彰
11. B&G 指導員・指導者会の必要性和ウォーターセーフティニッポンの活動について
B&G 財団理事長／WSN 代表幹事 広渡 英治
12. 基調講演「B&G 指導員に期待すること」
ロンドン五輪セーリング日本代表コーチ 小松 一憲 氏
13. 指導者会事例発表 ～全国10ブロック代表～
14. 閉会

交流会

17:30～ 笹川記念会館 4F

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
B&G全国指導者会



ご挨拶



公益財団法人
ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会長 梶田 功

全国の「B&G指導員」の皆さまには、日頃から「海洋センター」「海洋クラブ」において、“スポーツ・健康・人づくり”を目的とする「B&Gプラン」の推進に対し、多大なるご理解・ご協力を賜わり衷心より厚くお礼申し上げます。

また、「B&G全国指導者会」会長である青森県南部町の工藤町長様をはじめ、各ブロック、道府県の責任者の皆様には、本総会の開催や「地域指導者会」の設置促進にご尽力をいただき、重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、日本の未来を担う子どもたちの心と身体の健全育成のため、全国のB&G指導員1万7千人の力が結集され、「B&G全国指導者会」が設立されて3年が経過いたしました。

その間、わが国では未曾有の東日本大震災による甚大な被害が発生し、現在も東北3県をはじめ、被災地では懸命な復興活動が続けられております。

B&G財団でも日本財団・ボートレース関係者のご理解・ご協力をいただきながら、壊滅した「海洋センター」の復旧支援や、海で遊ぶ機会を無くした子どもたちを「体験クルーズ」に招待するなど、支援活動を続けております。

この度の大災害を教訓として、改めて自然の脅威・自助意識・緊急時の対処法の教育など、“子どもたちへの「生きる力」の推進”が喫緊の課題となっています。

このことから、「海洋センター」「海洋クラブ」等での実体験の推進や「ウォーターセーフティニッポン」が全国展開する「水の事故ゼロ運動」の定着がますます重要となっておりま。

本日の総会において、日本一の海洋性レクリエーション指導員組織であります「B&G全国指導者会」の皆様が結束力・ネットワークをさらに強めていただくとともに、指導者の“熱い心と志”により『水の事故ゼロ運動』と「B&Gプラン」の推進に、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。



ご挨拶



B&G全国指導者会 会長
青森県南部町長

工藤 祐直

はじめに、東日本大震災で尊い命を失ったB&G指導者をはじめ、被災された皆様のご冥福を心よりお祈りいたします。

全国の「B&G指導員」並びに「B&G地域指導者会」の皆さま、本日は「第2回B&G全国指導者会総会」に、ご参加いただき誠にありがとうございます。

指導員の皆さまには、「青少年の健全育成」「地域の皆様の健康づくり」などへの常日頃からのご尽力に対し、心からの敬意を表する次第です。

さて、平成22年1月に「B&G全国指導者会」が結成され、3年目を向かえました。

第1回総会において定めた「ウォーターセーフティー ニッポン」の推進する「水の事故ゼロ運動」への全面的な協力として、今年度は全国の「海洋センター」などで、延べ85,000人もの子どもたちに対し、着衣泳や救助法などを指導され、着実に成果を上げております。

また、100%設置を目指す「地域指導者会」は、当初は64の海洋センターと、設置率は全体の13%に留まっていましたが、首長様をはじめ関係者の皆様に再三のお願いを行なった結果、現在では全国の70%を越える344海洋センターで結成いただいております。

今後とも「B&G全国指導者会」では、首長様をはじめ関係者の皆様に、B&G指導者の重要性・必要性を伝えるとともに、「定期的な指導員の養成」「海洋センターへの適正な配置」「地域指導者会の設立と活動への理解」などへのご理解を求めています。

会員の皆さまには、B&G指導者としての自覚を持ち、一人ひとりが資質向上に努め、情熱をもって海洋センターや財団事業などを積極的に展開していただきたいと思います。

本日の第2回総会では、“未来を担う子どもたちのために”全国17,000人の指導員が一致団結し、「育てよう生きる力・とどけよう笑顔と元気」、この思いを全国各地に発信していきましょう。



基調講演 「B&G指導員に期待すること」

ロンドンオリンピックセーリング日本代表コーチ

B&G テクニカルアドバイザー

小松一憲 氏



小松一憲氏紹介

小松一憲先生は、昭和23年に生まれ横浜で育ち、日本体育大学卒業後、中学校教諭を経てヤマハ発動機(株)に入社しました。プレジャーボートの設計開発に携わりながら、同社のヨット部に所属し、470級全日本大会優勝6回、ソリング級全日本大会優勝7回のほか、オリンピックではモントリオール大会470級日本代表、ソウル大会、バルセロナ大会、アトランタ大会では、それぞれソリング級日本代表として出場しました。以後、監督としてシドニー大会、アテネ大会に参加し、日本ヨット界念願の男子470級銅メダル獲得（アテネ大会）に大きく貢献されました。また、昨年8月に開催されたロンドン大会では、コーチとして参加し、ご活躍されました。

外洋レースにおいては、IOR級3種目で全日本選手権制覇のほか、八丈島レース優勝、鳥羽パールレース優勝、J-24級全日本優勝など、国内の名だたるレースでタイトルを手にする一方、国際大会にも積極的に参加し、ネーションカップ・アジア・オセアニア大会優勝や、平成5年には世界の名将、ロス・フィールド率いるチームの一員として「ホワイトブレッド世界一周レース」に参戦し、みごとに優勝を果たしました。

小松一憲先生はこのように、デインギーから外洋レーサーまで、あらゆるヨットを乗りこなし、多くのセーラーから信頼と熱い支持を受け続けています。現在は、世界に通じる選手の育成を目指すとともに、B&G財団のテクニカルアドバイザーとして「B&G指導者養成研修」「レベルアップ研修会」「B&Gドリームキャンプ」などの講師としても活躍中です。



「海洋センター」と「B&G指導員」は「B&Gプラン」推進の両輪

「B&G指導員」の養成と活動へのご理解を

青少年の健全育成、地域住民の健康・人づくりを目指す「B&Gプラン」の推進には、施設の整備とともに、適切な指導知識や技能を備えた指導者が不可欠なことから「海洋センター」には「B&G指導員」の常勤が条件とされています。

「B&G指導員」は、水泳・ヨット・カヌーなどの実技指導、安全の確保、礼と節、思いやり等の徳育教育、施設管理など、様々な厳しい研修を長期に渡り受講しています。これまでもその知識と能力により、海洋性レクリエーションを通じた青少年教育、幼児から高齢者までの健康・人づくりなどに大きく貢献してきました。

しかし、青少年の自然体験不足・体力低下、高齢者医療費の急増、国民の健康に対する意識の高揚など、新たな問題や要望は後を絶ちません。



B&G財団理事長
広渡英治

また、スポーツの技術や安全の知識や手法は日進月歩です。

自治体の大変厳しい状況は充分承知していますが、是非定期的に新たな「B&G指導員」を養成いただき、最新の知識や技能を過去の有資格者に伝え、常に最新情報が共有できるシステムを整えていただきますことをぜひお願い申し上げます。



地域の活性化のためにも「B&G地域指導者会」の設立と活用を

B&G財団ではより質の高い指導体制と安全性を確保するため、「B&G地域指導者会」の設置を強くお願いしております。

個々の「海洋センター」に勤務する「B&G指導員」の人数は限られます。「B&G地域指導者会」は、大人数を対象とした自然体験活動の実施や自治体のイベントの際など、安全確保や適正な指導体制のため人事異動により他部署で勤務する「B&G指導員」や「ボランティア指導員」等が、必要に応じ組織の壁を越えて連携・協力する体制を整えていただくものです。

人事異動とともに「B&G指導員」個々の技能等を発揮する機会を無くしてしまう事は、自治体にとっても地域住民にとって大きな損失となります。

「B&G地域指導者会」は、有資格者の有効活用、安全性の強化を目的に、全ての海洋センターでの設置を推進しており、現在344センター、7割を超える海洋センターで設置されています。

「B&G地域指導者会」が結成されていない「海洋センター」所在の首長様をはじめ自治体執行部の皆様には、青少年の健全育成をはじめ地域の発展のためにも「B&G地域指導者会」の設立と活動へのご理解をお願いいたします。



四国ブロック全28センターに100%指導者会設置（平成24年5月）

B&G指導員養成研修について

B&G指導員養成研修 「人材認定事業」として国が認定

「B&Gアドバンスト・インストラクター養成研修」「B&Gアクア・インストラクター養成研修」は、平成20年より、海洋関係事業では史上初となる「環境保全活動・環境教育推進法に基づく“人材認定事業”」として環境大臣と国土交通大臣から認定を受けています。



充実した研修の環境・設備が整うマリンピアザオキナワ

「マリンピアザオキナワ」は従来からの研修地（沖縄県本部町）であった「B&G沖縄海洋センター」を、より広域の青少年等へ海洋性レクリエーションを提供する施設として全面改築し平成12年にオープン、平成15年には本部町へ無償譲渡されています。

「マリンピアザオキナワ」はヨット・カヌー・ダイビングなどの実践に恵まれた海洋環境を有するとともに、宿泊施設・大ホール・屋内温水プール・研修室・広場・多種多様な舟艇器材などを整備しており、毎年充実した研修が行われるとともに、毎年多くの修学旅行生が訪れ、海洋性レクリエーションを満喫しています。



カヌー実技



ライフセービング実習



マリンピアザオキナワ全景



マリンピアザ宿泊棟



水泳実技



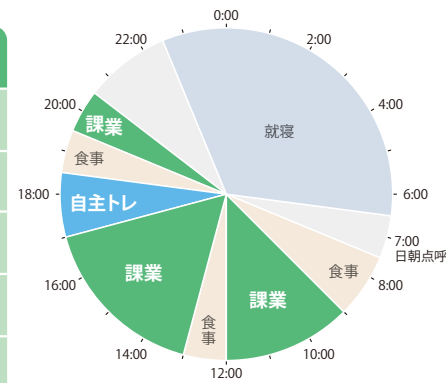
ヨット実技

多様な研修内容と一流講師陣

多種多様な研修内容

養成研修内容 平成24年度アドバンスト・インストラクター 35日間

主な教科内容		履修時間 200h以上
理 論	海洋性レクリエーション総論、海洋性レクリエーション活動と安全、海洋・環境教育、海洋センター管理・運営 等	20h
規 律	集団行動法、指揮法、点呼 等	10h
実 技	カヌー、ヨット、水泳、ロープワーク、健康づくりプログラム、ジョギング、インタープリテーション（自然学習指導法） 等	125h
実 習	海洋性レクリエーション指導実習、施設・器材管理実習、環境学習、健康づくりプログラム 等	40h
安全管理	心肺蘇生法（CPR・AED）講習、救助法、事故発生シミュレーション 等	10h
そ の 他	市町村長講話、先輩指導者講話、各種試験 等	5 h



1日の基本スケジュール

※アクア・インストラクターは28日間 履修時間150h以上

一流講師陣による熱血指導

養成研修では、各分野において活躍中の著名な講師陣をお招きし、情熱溢れる指導を頂いています。



ヨット
ロンドン五輪
セーリング日本代表コーチ
小松 一憲 氏



ヨット
アトランタ五輪
女子470級 銀メダリスト
重 由美子 氏



陸 上
東京国際女子マラソン 優勝
谷川 真理 氏



水 泳
シドニー五輪
女子100M背泳ぎ 銀メダリスト
中村 真衣 氏



運動生理学
中京大学 学長
北川 薫 氏



安全・救命
日本ライフセービング協会 理事長
流通経済大学 教授
小峯 力 氏



海洋レクリエーション総論
名桜大学 教授
柳 敏晴 氏



着衣泳
筑波大学 教授
椿本 昇三 氏



海洋教育・環境学習
オーシャンファミリー 代表理事
海野 義明 氏



インタープリテーション
㈱自然教育研究センター 取締役
古瀬 浩史 氏



ヨット
日本OP協会 理事
B&G別府海洋クラブ 代表
濱本 徹夫 氏

ウォーターセーフティー ニッポン(水の事故ゼロ運動推進協議会) 水の事故ゼロ運動

ウォーターセーフティー ニッポンとは

平成22年3月、海洋に携わる7団体が発起人となり「水の事故ゼロ運動」を推進する官民一体の協働組織として「ウォーターセーフティー ニッポン」を設立。

平成25年1月1日現在、「水の事故ゼロ運動」に取り組むパートナー1,173団体、趣旨に賛同するサポーター8,979人が登録しています。



代表発起人 日本財団 会長
笹川 陽平氏を囲んでの
設立記者発表会

※写真左から 日本トリアスロン連合 会長 岩城光英／日本ライフセービング協会 理事長 小峯 力／日本セーリング連盟 会長 山崎達光／日本財団 会長 笹川陽平(代表発起人)／B&G財団 会長 梶田 功／Water Safety New Zealand(協力団体) Executive Director Alan Muir／海洋政策研究財団 会長 秋山昌廣／日本カヌー連盟 会長 福田康夫(代)

海外との業務提携

平成21年11月には、国をあげて「水の安全教育」に取り組み、20年間で国内の水の事故を半減させた実績を持つ、ニュージーランドの非営利組織「ウォーターセーフティー ニュージーランド」(WSNZ)と業務提携を調印。協力団体として、定期的な情報交換を行っています。

また平成24年6月には、「水の安全教育の普及」、「水辺の事故防止活動」の分野で世界を牽引する立場にあるオーストラリアにおいて、連邦政府や地方自治体を巻き込みながら、様々な団体の取組みをまとめる「オーストラリアン・ウォーターセーフティー協議会」(AWSC)との業務提携に至りました。

日本における「水の事故ゼロ」の実現に向け、3カ国間の情報共有を今後更に密にしていきます。



WSNZとの調印式
(平成21年11月)



AWSCとの調印式
(平成24年6月)



200名を越える「AWSC国際会議」
出席者が見守る中、承認・調印式

日本の水の事故の死亡率は諸外国に比べ大変高い

WHO(世界保健機関)が公表した平成17年の国別死亡原因リスト(人口10万人当たりの数値)によると、日本の溺死者数は男女平均4.95人でイギリス0.4人の約12倍、オランダ0.55人の約9倍、アメリカ1.2人の約4倍と高い。

また、平成18年度の厚生労働省の人口動態統計では、1～14歳の子どもの見ると、溺死・溺水は119人で不慮の事故死のうち交通事故の196人に次ぎ2番目に高い要因となっている。

水の事故ゼロ運動とは

行政、団体、企業、マスコミ、ボランティア、個人など官民が一丸となり、水の事故防止のための「安全教育」と子どもたちの健全な成長に欠かせない「自然体験活動」を推進する全国運動。

「水の事故ゼロ運動」で行う安全教育の主な内容は、着衣泳、ペットボトル等身近な物で浮く体験、ライフジャケットの効果確認、気象や離岸流などについて学ぶ紙芝居など。

全国の海洋センター・海洋クラブで展開される水の事故ゼロ運動

「ウォーターセーフティー ニッポン」のパートナーである「B&G全国指導者会」をはじめ、「海洋センター」「海洋クラブ」で展開する「水の事故ゼロ運動」は、児童・青少年などを対象に201の海洋センター・60の海洋クラブで実施され、約50,000人（平成23年度実績）が参加しています。

“濡れた服は大変重く、いつものように泳げない”“ペットボトル1つでも浮くことが楽になる”など、万が一の時に、実体験があると無いとでは、生死を分けることもあります。

「海洋センター」「海洋クラブ」での活動はもとより、学校事業への導入など1人でも多くの子ども達に「水の事故ゼロ運動」への参加の機会を与えていただくことをお願いいたします。

1 「水辺の安全教室」の実施

全国の海洋センター・海洋クラブで「水辺の安全教室」を年3回、実施いただくようお願いしております。

これは、「着衣泳」、「ライフジャケット浮遊」、「ペットボトルを使った浮き身」、「安全紙芝居」などを組み合わせて実施し、“自分の命は自分で守る”という自助意識を高めることを目的に実施しています。



「水辺の安全教室」は、平成22年のWSN設立以来
延べ100万8,064人が参加しています。

2 ケーブルテレビ（CATV）での安全教育映像の放映

WSNが制作した、津波や集中豪雨などに対する「安全教育映像」を地元のケーブルテレビで放映いただいております。

No.	市町村名	No.	市町村名	No.	市町村名	No.	市町村名
1	北海道枝幸町	7	長野県白馬村	13	岡山県鏡野町	19	愛媛県鬼北町
2	秋田県由利本荘市	8	長野県山形村	14	山口県周防大島町	20	愛媛県愛南町
3	新潟県糸魚川市	9	三重県志摩市	15	徳島県阿南市(2社)	21	佐賀県太良町
4	石川県志賀町	10	兵庫県南あわじ市	16	徳島県那賀町	22	佐賀県江北町
5	石川県七尾市	11	鳥取県北栄町	17	徳島県徳島市	23	長崎県五島市
6	山梨県南アルプス市	12	岡山県備前市	18	愛媛県松山市		

(平成24年度)

「安全教育映像」の放映回数は、**23自治体、延べ595回** 放映されました。
WSNでは、放映いただける自治体を随時募集しています。

平成22年

B&G 全国指導者会設立総会（振り返り）

未来を担う子ども達のために！ ～日本一の海洋性レクリエーション指導員組織設立～

平成22年1月16日、全国17,000人が登録する「B&G指導員」により、日本一の海洋性レクリエーション指導員組織となる「B&G全国指導者会」が設立されました。

600人を超える「B&G指導員」が出席した設立総会では、「B&G全国指導者会会員は、日本全国での自然体験活動と水の安全教育の更なる推進のため、会員が一致団結し、未来を担う青少年の健全育成に努める」との宣言がされ、大きな志を持つ「B&G指導員」たちの新たな一歩が踏み出されました。



ブロック責任者

「B&G全国指導者会」の設立趣旨

「海洋センター」での活動などを通じた地域の活性化と“青少年の成長に重要な「自然体験活動」と自助意識を養う「水の安全教育」”を推進する「水の事故ゼロ運動」の積極的展開などにより、未来を担う子どもたちの健全育成に貢献する。

「B&G全国指導者会」の活動

- 全国480ヶ所への「B&G地域指導者会」の設立と活動への理解促進
- 地域での「水の事故ゼロ運動」の積極的展開と理解促進
- 「B&G指導員」の資質向上と情報交換等を目的とする研修会等の開催
- 全国の「B&G地域指導者会」「B&G指導員」との情報ネットワークの構築
- 全国の「B&G地域指導者会」の活動の周知（広報展開）
- B&G財団・自治体等へ要望・依頼
- その他「B&G地域指導者会」等の活動のサポート



日本財団笹川会長による基調講演



指導員褒賞 ゴールド褒賞者



金久副会長による締めの挨拶

H25.1.1 現在

10

B&G全国指導者会 3年間の事業報告及び決算報告

活動概要



本会の設立趣旨を充実発展させるためには、各地域での積極的な活動と事業展開が必要であり、各地域海洋センターに1地域指導者会設置を目標に、海洋センター設置自治体首長・教育長・責任者等に設置要請及び活動支援を要請を行った。また、水辺の安全教室で「自分の身は自分で守る」ことの啓発活動、指導技術や安全知識は、日々進歩することから、指導員のレベルアップ研修会を開催するとともに、本会の活動を広く周知するため「B&G全国指導者会かわら版」を発行、シンボル旗作成、さらに指導員の横の繋がりを、情報の提供・共有のための情報送受信のネットワークを構築した。

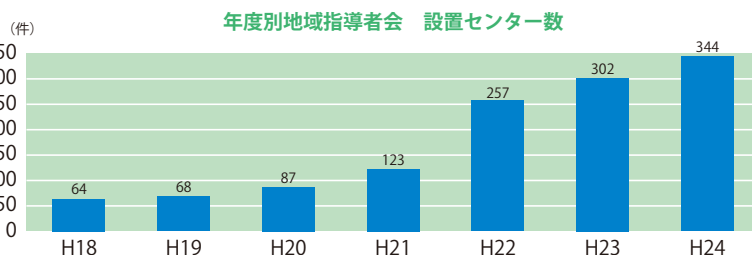
3年間の活動報告

1) B&G全国指導者会の基礎を成す「地域指導者会」

平成21年1月のB&G全国指導者会設立を契機に、地域指導者会の設置センター数は大幅に増加。

平成25年1月1日現在、全474センター中344センターが登録済みで、72.6%の設置率となっている。

四国ブロックについては、平成24年5月1日をもって、ブロック内100%をいち早く達成した。



2) 水の事故ゼロ運動につながる「水辺の安全教室」

	実施団体数			実施教室数			参加者総数		
	海洋センター	海洋クラブ	合計	海洋センター	海洋クラブ	合計	海洋センター	海洋クラブ	合計
平成23年3月末	242カ所	106カ所	348カ所	778教室	406教室	1,184教室	23,950人	9,140人	33,090人
平成24年3月末	207カ所	60カ所	267カ所	768教室	538教室	1,306教室	36,235人	14,017人	50,252人
平成24年12月末現在	207カ所	23カ所	230カ所	626教室	48教室	674教室	25,134人	1,593人	26,727人

3) 指導者の新たな知識習得やスキルアップのための「指導者レベルアップ研修会」

- 各海洋センター・海洋クラブ活動と地域指導者会会員による同時研修の実施
 - 都道府県連絡協議会及びブロック連絡協議会での研修会の実施
- それぞれ年1回以上の研修会実施が定着した。

4) 情報発信「かわら版」の発行

- 年3回発行を基本に、創刊号から第6号まで発行し、全国の指導者間での情報の共有と仲間としての意識の醸成を図った。

5) B&G全国指導者会の活動への理解と事業推進のための啓発活動

- 海洋センター所在自治体などへ「地域指導者会設置要請」「本会活動への支援協力要請」等文書依頼
- B&G全国サミット、全国教育長会議・指導員研修会等に於ける本会活動の理解啓発
- ブロック総会・ブロック活性化会議にて、本会の設立意義および活動協力依頼



6) B&G全国指導者会シンボル旗の作成

全国の指導員からシンボルマークを募集し、指導員同士の絆と指導としての意識の高揚を高めるため、シンボル旗及びブロック旗を作成した。

7) B&G全国指導者会の運営

- 正副会長会議（各年度 3回）
- ブロック責任者会議（各年度 2回）
- 都道府県責任者連絡会議（各年度ブロック総会、ブロック活性化会議にあわせ開催）

8) その他の活動

- 東日本大震災に伴う支援協力活動：東日本大震災復興のための支援金協力を呼びかけ、日本財団を通じ被災地復興に協力。
- 「エール FOR 日本」への協力：B&G出身選手が出場したロンドンオリンピックへの協力としてオリンピックロゴマーク入りのポロシャツ等購入支援のほか日本財団、B&G財団と連携し、啓発活動を進めた。

決算報告

年 度	予算額	説 明	決算額	説 明
平成22年度	100,000円	B & G財団活動助成金	6,840円	事務的経費
平成23年度	694,000円	B & G財団活動及び運営助成金 前年度繰越金ほか	353,200円	会議費 全国指導者会の啓蒙啓発活動に係る旅費 他
平成24年度	941,000円	B & G財団活動及び運営助成金 前年度繰越金ほか	941,000円	会議費 全国指導者会の啓蒙啓発活動に係る旅費 シンボルマークデータベース作成費 シンボル旗・ブロック旗作成費 第2回総会開催にかかる経費 他

*平成24年度予算は、現在執行中であり、決算額については見込額を記載しています。

B&G全国指導者会 規則

総 則

第1条 この規則は、B&G海洋性レクリエーション指導者会（以下「B&G指導者会」という。）およびB&G海洋性レクリエーション指導員（以下「B&G指導員」という。）を会員とするB&G全国指導者会（以下「本会」という。）について定めるものとする。

目 的

第2条 本会は会員相互の連携強化を促進し、情報交換や指導力向上に努めるとともに、ブルーシー・アンド・グリーランド財団（以下、「財団」という。）が展開する水の安全教育と自然体験活動推進の全国運動に積極的に協力するなど、海洋性レクリエーションの実践活動等を通じた青少年の健全育成を図ることを目的とする。

活動等

第3条 本会会員は次の活動等を行う。

- （1）会員相互の全国的交流・情報交換等のための本会総会への出席
- （2）会員の資質向上を目的とした研修会等の開催および参加
- （3）財団をはじめ全国的に推進する「水の事故ゼロ運動」等の参加および推進
- （4）海洋センターおよび海洋クラブの活性化に関する活動
- （5）財団人材バンク事業への協力
- （6）会報紙等の発行
- （7）財団の実施する海外等視察調査への参加
- （8）財団主催等の国際交流事業等の視察・参加
- （9）その他、本会の目的達成に必要な活動

役 員

第4条 本会の活動を円滑にするため、会員の中から次の役員を置く。

会 長	1 名
副会長	2 名
その他の役員	必要に応じ別に定める

役員の選任および任期

第5条 前条の役員は、財団の推薦により本会総会出席者の承諾を得て選任する。

2 役員の任期は原則 3 年に 1 度開催される本会総会日から次期開催日の前日とする。ただし再任を妨げない。

役員の仕事

第6条 会長は本会を代表し、財団とともに会務を総括する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときまたは欠けたときは、その職務を代理する。

地域責任者

第7条 本会の活動を円滑にするため、会員の中から次の地域責任者を置く。

ブロック責任者 財団の定める10ブロックから原則各 1 名、ただし必要に応じ財団と協議のうえ変更することができる。

都道府県責任者 各都道府県から原則 2 名

地域責任者の選任および任期

第8条 ブロック責任者は、都道府県責任者の中から、財団および役員との協議により選任する。

2 都道府県責任者は、海洋センター道府県連絡協議会の推薦により、財団と役員との協議により選任する。

3 ブロック責任者および都道府県責任者の任期は役員に準拠する。

ブロック責任者の職務

第9条 ブロック責任者の職務は次のとおりとする。

- （1）本会の毎年度の事業計画および収支予算、事業報告および収支決算について議決し、執行する。
- （2）ブロック内のB&G指導者会の活動等の把握・統括
- （3）ブロック内のB&G指導者会の活性化および登録促進
- （4）「B&G全国指導者会ブロック責任者会議」への出席
- （5）必要に応じ、「海洋センターブロック連絡協議会総会」等における助言・報告
- （6）その他、本会の目的達成および活性化に関する事項

都道府県責任者の職務

第10条 都道府県責任者の職務は次のとおりとする。

- （1）都道府県内のB&G指導者会の活動等の把握・統括
- （2）都道府県内のB&G指導者会の活性化および登録促進
- （3）必要に応じ、「海洋センター都道府県連絡協議会総会」等における助言・報告
- （4）その他、本会の目的達成および活性化に関する事項

総会・会議

第11条 本会の全会員を対象とする「B&G全国指導者会総会」は、原則として 3 年に 1 回開催し、内容等についてはブロック責任者会議で決定する。

2 役員およびブロック責任者を対象とする「B&G全国指導者会ブロック責任者会議」は、原則として毎年 2 回開催する。

3 その他、必要に応じて財団と役員の協議により、正副会長会議および会議を招集することができる。

4 総会および会議の開催日程・開催場所は、財団が定める。

5 本会は、事業の推進および円滑な運営のために、財団と本会役員で協議のうえ専門委員会を置くことができる。

会計・監査

第12条 本会の会計は、毎年度ごと「B&G全国指導者会ブロック責任者会議」において監査し、承認を受けなければならない。

2 会計事務は、事務局および会長が指名した会員が行う。

3 監事は、財団および本会役員の協議により財団職員 1 名およびブロック責任者 1 名を選任する。

表彰および慶弔

第13条 本会の表彰および慶弔に関しては、本会役員および財団役員が協議し決める。

2 表彰等については、本会の運営および活動に関し、特に顕著な功績があった者等とする。

3 慶弔等の対象者は、本会役員、ブロック責任者、およびその他該当する者とする。

事務局

第14条 本会の事務局は、財団内に置き、その事務は事業部があたる。

雑 則

第15条 この規則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は財団が定める。

附 則

この規則は、平成22年 1 月16日から施行する。

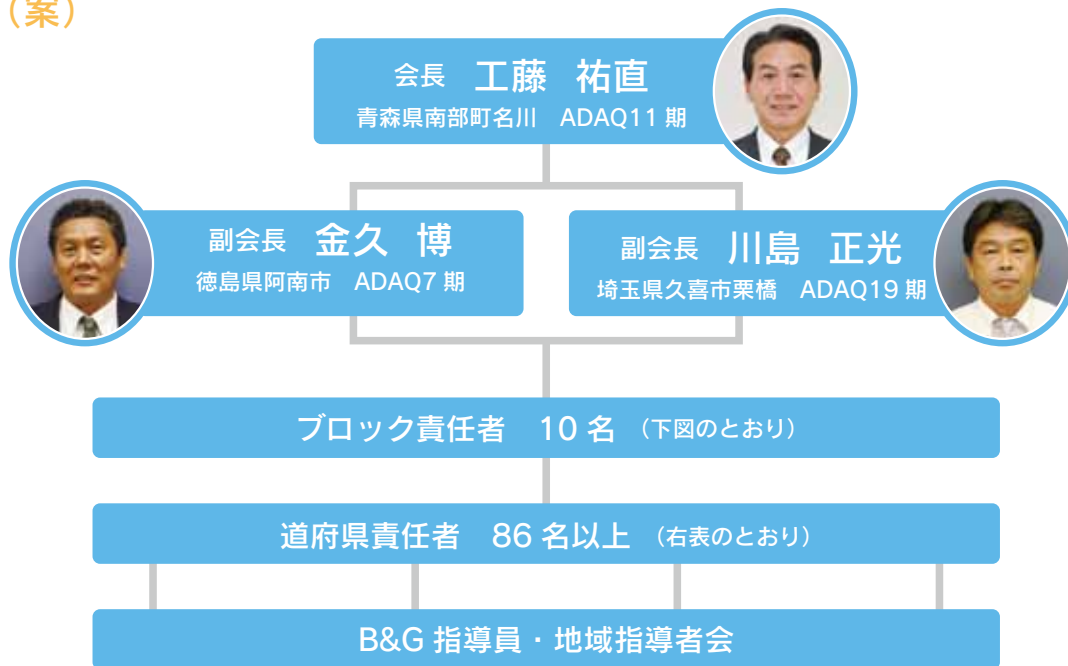
附則

この規則は、平成24年 9 月25日から施行する。

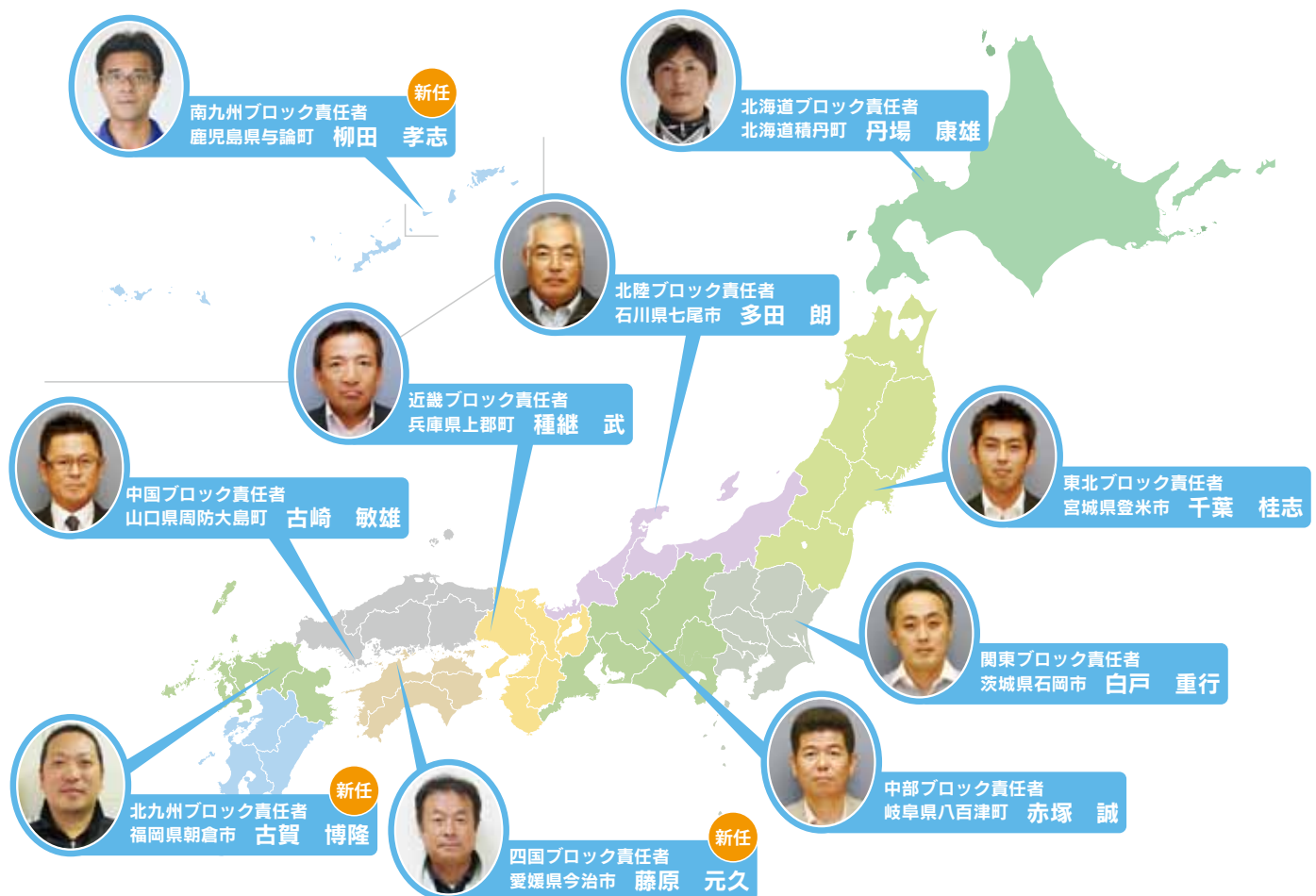
平成25年～平成27年

B&G全国指導者会 組織図・ブロック責任者

組織図（案）



ブロック責任者



道府県責任者

ブロック	道府県名	氏 名		所属センター名	期・回・年度	ブロック	道府県名	氏 名		所属センター名	期・回・年度	
北海道	北海道	再任	丹 場 康 雄	積丹町	AQ 5 回	近畿	滋賀県	新任	伏 木 文 秀	長浜市浅井	AD 3 回	
		再任	宮 田 和 彦	新篠津村	ADAQ26期			新任	入 江 克 之	高島市今津	LE2009年度	
		再任	草 島 猛	石狩市	AQ 5 回		京都府	再任	馬 場 俊 文	宮津市	ADAQ17期	
		再任	小 島 武 史	砂川市	ADAQ 6 回			再任	今 西 均	南丹市八木	AQ1987年度	
		新任	斉 藤 裕 也	砂川市	AD13回		大阪府	新任	酒 見 和 宏	千早赤阪村	ADAQ34期	
再任	齋 藤 秋 雄	弘前	ADAQ1978年度	—	—			—	—			
東北	青森県	再任	柳久保 正 弘	南部町名川	ADAQ15期		兵庫県	再任	種 継 武	上郡町	ADAQ16期	
		新任	大久保 憲 仁	洋野町種市	ADAQ31期			再任	橋 本 忠 明	豊岡市竹野	ADAQ20期	
	岩手県	再任	平 舘 豊	大槌町	AD11回			新任	藤 本 真 樹	神河町神崎	AQ11回	
		再任	千 葉 桂 志	登米市迫	AD 9 回			奈良県	新任	石 之 仁	曾爾村	LE2012
	再任	我 妻 敏	蔵王町	AQ1988年度	—	—			—	—		
	宮城県	新任	布施谷 忠 夫	大郷町	AD19期、AQ1985年度	和歌山県		再任	太 田 陽 介	串本町	AQ 9 回	
		再任	大 瀧 賢 一	能代市	ADAQ20期		再任	伊 藤 俊 文	串本町			
	秋田県	再任	長 滝 功	由利本荘市由利	ADAQ29期	鳥取県	再任	西 尾 浩	鳥取市	AD 4 回		
		再任	佐 藤 祐	舟形町	AD11回		新任	仲 田 正 則	伯耆町岸本	ADAQ31期		
	山形県	再任	石 黒 貴 仁	酒田市平田	AD14回		新任	小 谷 秀 雄	鳥取市佐治			
		福島県	新任	鈴 木 晴 美	柳津町		ADAQ 4 期	島根県	再任	山 谷 裕 昭	西ノ島町	AD 9 回
	新任		遠 藤 和 夫	田村市滝根	AQ 3 回	再任	毛 利 智 史		雲南市加茂	ADAQ17期		
	関東	茨城県	再任	白 戸 重 行	石岡市	ADAQ31期	中国	岡山県	再任	和 田 修 一	井原市井原	AQ 1 回
新任			鳥 居 勉	北茨城	AQ1985年度	新任			依 田 伸一朗	岡山市建部町	AD11回	
再任			山 口 英 樹	かすみがうら市千代田	AD・AQ38期	広島県		新任	大 越 利 夫	府中市	AD 2 回	
栃木県		新任	森 林 浩 之	那須烏山市南那須	AQ1990年度			新任	深 水 真 司	東広島市黒瀬	AD12回	
		新任	木 村 貴 虎	波賀町	AQ12回	山口県		再任	古 崎 敏 雄	周防大島町	ADAQ25期	
群馬県		新任	島 田 聡	明和町	ADAQ31期			新任	藤 中 峰 雄	岩国市美和	AQ1997年度	
		新任	和 田 光 彰	玉村町	AQ 8 回	新任	松 田 翔	田布施町	LE2012年度			
埼玉県		再任	飛鳥馬 昇	松伏町	AD24期、AQ1989年度	四国	徳島県	再任	池 内 正 典	徳島市	ADAQ10期	
		再任	長 峰 一 雄	吉見町	ADAQ37期			再任	橋 本 一 晴	美波町由岐	ADAQ29期	
千葉県		新任	伊 藤 勝 晟	香取市山田	AD 1 回		香川県	再任	鷺 辺 隆 宏	高松市国分寺	ADAQ36期	
		新任	藤 崎 達 哉	成田市大栄	AQ14回			再任	関 政 幸	三豊市高瀬	LE2004年度	
北陸		新潟県	新任	阿 部 正 夫	南魚沼市大和				新任	藤 原 元 久	今治市大三島	AQ1987年度
			新任	佐 藤 一 好	長岡市越路			AQ1989年度	愛媛県	再任	濱 岡 邦 之	愛南町御荘
	富山県	新任	倉 満 一 成	高岡市福岡	LE1985年度	新任	楠 目 匠	鬼北町広見		AQ14回		
		新任	金 平 裕	砺波市	ADAQ36期	高知県	再任	竹 内 浩 子	四万十町窪川	AQ10回		
	石川県	再任	多 田 朗	七尾市	ADAQ25期		新任	大 峯 啓 之	香美市香北	AQ 9 回		
		新任	中 田 洋 満	白山市鶴来	AQ 2 回	北九州	福岡県	再任	進 友 雄	みやこ町犀川	ADAQ28期	
	福井県	再任	米 川 浩 司	高浜町	AD 6 回			再任	相 原 剛 志	福智町金田	ADAQ29期	
		新任	野 井 政 明	坂井市春江	ADAQ30期		再任	古 賀 博 隆	朝倉市甘木	ADAQ 3 回(1998年度)		
中部	山梨県	再任	橋 本 篤 幸	南アルプス市白根	AD10回		佐賀県	再任	牛 島 郷	みやき町北茂安	AQ 8 回	
		新任	関 口 雄 二	甲州市塩山	AQ10回			新任	國 分 俊 輔	神埼市	AD11回	
	長野県	新任	渡 辺 宏 之	大町市	AD10回			長崎県	新任	山 田 武 範	壱岐市勝本	AQ14回
		新任	太 田 浩 補	山形村	AQ14回	新任			志 方 寛次郎	南島原市加津佐	ADAQ 5 期、LE1980年度	
	岐阜県	再任	赤 塚 誠	八百津町	ADAQ22期	大分県	新任	亀 山 直 記	佐伯市上浦	AD13回		
		再任	三 好 誠 司	可児市	ADAQ20期		新任	高 橋 和 孝	佐伯市上浦			
	静岡県	新任	松 下 佑 多	浜松市天竜一	AQ13回	熊本県	新任	工 藤 陽 平	湯前町	AD12回		
		新任	罫 拓 也	袋井市袋井	AQ14回		再任	西 秀 隆	玉名市岱明	AD・AQ35期		
	愛知県	再任	高 須 伸 一	西尾市一色	AQ1987年度	宮崎県	新任	押 川 聡 史	宮崎市田野	AQ13回		
		再任	原 田 経 美	東栄町	ADAQ27期		新任	柳 田 孝 志	与論町	AQ12回		
		三重県	新任	内 田 徹	菰野町		AQ1984年度	鹿児島県	新任	小森田 弘 憲	日置市東市来	AQ11回
			再任	森 下 強	松阪市飯高		ADAQ29期		新任	濱 田 利 宜	薩摩川内市樋脇	AQ13回
						沖縄県	再任	仲宗根 太	本部町	AD13回		
						新任	大 平 淳 一	名護市	AQ 9 回			

指導員 褒賞



宮前 伸之

北海道 苫前町海洋センター
1992年度AQインストラクター



布施谷 忠夫

宮城県 大郷町海洋センター
第19期AD・1985年度AQインストラクター・1985年度リーダー



白戸 重行

茨城県 石岡市海洋センター
第31期AD・AQインストラクター



海野 義明

神奈川県 葉山海洋クラブ
2005年度リーダー



伊藤 実花

富山県 富山市八尾海洋センター
1995年度AQインストラクター



赤塚 誠

岐阜県 八百津市海洋センター
第22期AD・AQインストラクター
1986年度リーダー



安田 つた江

兵庫県 香美町香住海洋センター
1987年度AQインストラクター・
1986年度リーダー



岡田 二郎

岡山県 美作市作東海洋センター
第12期AD・AQインストラクター



小池 正紀

愛媛県 今治市大三島海洋センター
第29期AD・AQインストラクター・
1990年度リーダー



進 友雄

福岡県 みやこ町豊津海洋センター
第16期AD・1984年度AQインストラクター



山浦 義光

熊本県 湯前町海洋センター
第7期AD・AQインストラクター



(順不同)

B&G海洋性レクリエーション指導員褒賞規程

第2条 B&G海洋性レクリエーション指導員がつぎの各号の一に該当するに至ったときは、財団はこれを褒賞する。

- (1) 責任観念に徹し、率先業務に励み、指導実績・操行共に他の模範となると認められたとき。
- (2) 実践的海事思想の普及に著しく貢献したとき。
- (3) 青少年の健全育成に著しく貢献したとき。
- (4) その他B&G海洋性レクリエーション指導員として特に褒賞するに価すると認められたとき。



No.	氏名	ブロック	道府県	センター・クラブ名
1	湯浅 紀尚	北海道	北海道	滝川市海洋センター
2	工藤 正毅	東北	青森県	弘前市海洋センター
3	長滝 功		秋田県	由利本荘市由利海洋センター
4	新田 薫		山形県	平田海洋クラブ
5	柳田 啓之	関東	栃木県	那須烏山市南那須海洋センター
6	飛鳥馬 昇		埼玉県	松伏町海洋センター
7	堂谷内 司	北陸	石川県	七尾市海洋センター
8	松下 秀一		石川県	かけはし海洋クラブ
9	永井 浩	中部	静岡県	掛川市海洋センター
10	鈴木 博幸		愛知県	西尾市一色海洋センター
11	東 勇		三重県	伊賀市大山田海洋センター
12	丹羽 英夫		愛知県	なごや海洋クラブ
13	酒見 和宏	近畿	大阪府	千早赤阪村海洋センター
14	藤田 雅義		兵庫県	伊丹海洋クラブ
15	仲田 正則	中国	鳥取県	伯耆町岸本海洋センター
16	毛利 智史		島根県	雲南市加茂海洋センター
17	本田 孝		広島県	尾道市向島海洋センター
18	中谷 清一郎		山口県	周防大島町海洋センター
19	清水 良一	四国	愛媛県	愛南町御荘海洋センター
20	鷲辺 隆宏		香川県	高松市国分寺海洋センター
21	竹内 浩子		高知県	四万十町窪川海洋センター
22	尾道 輝寿	北九州	長崎県	時津町海洋センター
23	深山 龍朗	南九州	鹿児島県	いちき串木野市海洋センター
24	大城 政幸		沖縄県	本部町海洋センター

(順不同)

指導者会 褒賞

宮城県 亘理町B&G海洋センター指導者会

平成22年度設立

登録員数：11名

代表者：佐々木 利久

〈主な活動〉

海洋センターと連携し各種事業の中核として活動している。また平成23年度からは東日本大震災で被災した住民を対象にして、仮設住宅の集会所にて「転プロ」を活用し、運動不足の解消と交流の場を提供している。



千葉県 香取市B&G海洋センター指導者会

平成22年度設立

登録員数：22名

代表者：伊藤 勝晟

〈主な活動〉

市内3海洋センターそれぞれ地域の特性を活かし、運営形態や主催事業等も様々な活動をしている。特にカヌーを主体とした海洋クラブ活動に力を入れ、国体出場選手を数多く輩出している。



愛媛県 愛南町御荘B&G海洋センター指導者会

平成18年度設立

登録会員数：27名

代表者：清水 良一

〈主な活動〉

町主催のイベントなどに、指導者会として積極的に運営のサポートを行い、可能な限り指導者の派遣を行っている。また、会員のスキルアップを目的とした指導員研修会等も毎年開催するなど、積極的な活動を行う。



- (1) 青少年の健全育成、住民の健康増進等に著しく貢献したとき。
- (2) B&G指導者会の運営が他の指導者会の模範となると認められたとき。
- (3) B&G指導者会の活動が広く社会的に周知されたとき。
- (4) その他特に優れた活動等と認められたとき。

鹿児島県 長島町B&G海洋センター指導者会

平成20年度設立

登録会員数：20名

代表者：石橋 健二

〈主な活動〉

25年以上に亘り、「カヌー長島海峡横断大会」を毎年実施するなど、海洋性レクリエーション指導者として、主に小・中学生を対象とした活動に力を注いでいる。また、自然体験活動や水の安全学習に積極的に取り組み、町民の健康増進事業に貢献している。



鹿児島県 阿久根市B&G海洋センター指導者会

平成21年度設立

登録会員数：19名

代表者：川原 陽介

〈主な活動〉

小学生の、泳げない子どもの水泳教室を、30年前から毎年実施するとともに成果発表として、毎年3kmの遠泳を行う「海の子カーニバル」を実施。

また、礼節を守ることの指導も併せて行い、子どもたちの成長の手助けに貢献している。



(順不同)



北海道ブロック広域連携体制

積丹町、新篠津村、滝川市、厚岸町、大樹町、石狩市

北海道新篠津村B&G指導者会 代表 宮田 和彦

平成3年3月9日設立 会員数:11名

発表者: 宮田 和彦

1. 概要

北海道ブロックでは、ブロック連協や道府県連協、各海洋センターの主催事業という枠に留まらず、各市町村で行われる地域イベント等において、近隣市町村のB&G指導者会と連携し、「水の事故ゼロ運動」の一環として安全啓発事業を積極的に展開しています。

2. 連携事業の一例

事業名 水の事故ゼロ運動(安全啓発事業)巡視艇安全体験クルーズ in 積丹ソーラン味覚まつり
(主催: 積丹町商工観光課や地元商工会等多種多様な団体で構成した実行委員会)

日時 平成24年6月24日(日) **場所** 北海道積丹郡積丹町 美国漁港

来場者数 1日平均 約30,000人 **安全啓発事業参加人数** 4,067名

協力団体 小樽海上保安庁、積丹町消防署、WSN事務局、ライフセービング協会、PWC安全協会など

B&G指導者会 新篠津村、滝川市、厚岸町、大樹町、石狩市から集結

実施内容 巡視艇「やぐるま」乗船体験、救助デモンストレーション、各種救助器材の展示及び使い方講座、紙芝居等



海上保安庁等関係者によるデモンストレーション



巡視艇「やぐるま」乗船体験



CPR実技研修



レスキューボードを使った実技研修

3. 今後の展開

海洋センターの枠を越えたB&G指導者会同士の連携強化によって、水の事故ゼロ運動やB&G財団が普及・推進する各種事業を、より広域的に、より多くの人々に伝えることができます。B&G財団が主催する体験クルーズが休止となる来年度は、代替策として、内陸部・沿岸部の交流を目的とした野外体験事業を模索するなど、今後更なる連携強化を目指していきます。

仮設住宅巡回いきいき運動教室

宮城県亘理町B&G指導者会 代表 佐々木 利久
平成22年9月15日設立 会員数:11名

発表者: 佐々木 利久

1. 活動趣旨

東日本大震災で被災した町民に対し運動不足解消と交流の場を設けることを目的とし、BG財団で指導を受けた「転倒寝たきり予防プログラム」を活用し仮設住宅の集会所を巡回している。

2. 実施概要

- 日 時** 平成23年11月から週5回（1教室1時間程度）
- 場 所** 町内仮設住宅集会所（5ヶ所）
- 参加人数** 5～20人（1集会所あたり）
- 内 容** ストレッチポール→セラバンド→レクリエーション
- そ の 他** 現在は亘理町スポーツ推進委員と一緒に活動しております。



ストレッチポール 1



ストレッチポール 2



セラバンド 1



セラバンド 2

3. 感想

参加者は被災する前までは庭の草むしりや家の掃除などで体を動かす機会が多くありました。しかし、仮設住宅は今までの住居に比べれば狭小で庭も無いため運動不足になりがちになります。そこで亘理町B&G海洋センター指導者会ではB&G財団の「転倒寝たきり予防プログラム」の指導を受けておりましたので活用させていただきました。軽運動を続けることで参加者の姿勢が目に見えて改善しております。また、レクリエーションや教室終了後のお茶会により、参加者相互の交流の場をつくることができました。実施してから1年が経過しましたが現在の参加者の様子を見ると実施して良かったと強く感じています。

出張「水辺の安全教室・カヌー教室」

埼玉県松伏町B&G指導者会 代表 飛鳥馬 昇
平成22年9月1日設立 会員数：6名

発表者：飛鳥馬 昇

1. 活動趣旨

地域指導者会として、「水の事故ゼロ運動」の事業展開を行うにあたり、カヌーやライフジャケットなど必要器材の相互提供及び「水辺の安全教室」の指導内容の向上を図るため、近隣の地域指導者会が連携協力し横の繋がりを深めながらブロック内事業を推進する。

2. 活動内容

埼玉県松伏町、久喜市栗橋、栃木県下野市の3つの「B&G指導者会」では、それぞれのセンターで行う「水辺の安全教室・カヌー教室」において、相互に器材の貸し借りをを行うとともに、指導においても3者が協力し、開催地に出向き実技指導を行っている。このことにより、指導内容の共通認識が図れるとともに、互いの指導技術を高めることに繋がっている。

また、この事業がセンター所在地のみならず、近隣市町、県の教育委員会をはじめ、障害者NPOからも教室要請がかかるなど、地域指導者会の横の連携が事業展開の拡大と「B&G指導者会」のPRに繋がっている。



久喜市栗橋で開催された「水辺の安全教室」



松伏・久喜市栗橋・下野指導者会スタッフ



「障害者カヌー教室」現場打合せ
(埼玉県 吉川市民プール)



障害者の乗艇を補助する指導スタッフ

3. 今後の展開

指導内容の共有及び指導技術の向上も含め、ブロック内の地域指導者会の横の連携を強化し、更なる「水の事故ゼロ運動」の推進とブロック内事業発展に貢献していく。

第24回B&Gマリーナフェスティバル in 砺波

となみ

富山県砺波市B&G指導者会 代表 村岡 修一
昭和60年 8月11日設立 会員数:42名

発表者: 金平 裕

1. 活動趣旨

平成元年にスタートしたマリーナフェスティバルを通して、海洋性スポーツレクリエーション（カヌー、OPヨット、ローボート等）の普及するとともに、海洋クラブが主催する「水上スポーツ教室」への参加促進をはかる。

2. 実施概要

日 時 平成24年 7月15日(日) 10:00~16:00

場 所 富山県砺波市上和田緑地マリーナ **参加人数** 1,800名

指導体制 スタッフ120名(富山県連協7センターから14名)

協力団体 砺波市、砺波市教育委員会、体育協会、砺波市梅檀野自治振興会、砺波市梅檀野公民館、砺波市ウォータースポーツ協会、富山県レクリエーション協会、富山県スナッグゴルフ協会、砺波市グラウンドゴルフ協会、砺波市ターゲットバードゴルフ協会、庄東地区スポーツ推進委員、大学・専門学校のボランティアスタッフ



マリンスポーツ体験試乗

家族で楽しめる
「熱気球搭乗体験」

カヌー大会を同時開催



モーターボートの体験試乗

3. 感想

このイベントには、富山県内から1,800名の参加者が集まりました。砺波市をはじめ、海に面していない地域からの参加者も多いことから、様々な海洋性スポーツを体験することができるこの事業の果たす役割は大きいと感じています。最初は、カヌーやヨットにしり込みをしていたことも、船から降りたときは、少し誇らしい顔をしています。わたしたちスタッフは、その笑顔が大きな励みとなっています。

海洋クラブとの連携 ヨット・カヌー教室

三重県いなべ市B&G指導者会 代表 杉本 剛
平成22年 3月25日設立 会員数:19名

発表者: 土岐 竜馬

1. 活動趣旨

普段体験する機会が少ない、ヨットやカヌー等の海洋性レクリエーションを通して、青少年育成の場としての自然とのつながりや、水辺の安全活動、地域の交流を深める取り組みとして実施。

2. 実施概要

日 時 平成24年 5月26日(土)、27日(日)、6月2日(土)、3日(日) (4日間)

場 所 三重県いなべ市大安町 「両ヶ池」

参加人数 21人 **指 導 者** 7名



【ヨット】地元のCATVが取材



艀装の様子



ヨット模擬レース



Eボート体験試乗

3. 感想

ヨット指導については、「B&Gなごや海洋クラブ」に協力いただきました。初日は指導者が手伝いながら艀装を行っていましたが、最終日にはバディで艀装していたことが印象に残っています。その他、カヌー、バナナボート、Eボートを体験し、内陸部でありながら、多様な海洋性レクリエーションを体験でき、子ども達も「楽しかった」、「もっと乗りたい」との感想がありました。

また、教室開催前にB&G財団となごや海洋クラブによる指導者研修も行い、指導者のレベルアップも兼ねることができました。子ども、指導者ともに充実した教室になったと感じ、来年度も「なごや海洋クラブ」と連携しながら是非開催したいと思います。

地域にうねりを

兵庫県南あわじ市南淡B&G指導者会 代表 松下 良卓
平成18年6月設立 会員数:50名

発表者: 久留米 三四郎

1. 心強い指導者会の存在

南あわじ市では、現在12名のADインストラクター・旧育成士が在籍しています。

LEを含めると、50名を超す集まりです。そして指導者会は、知識・技術の宝庫です。ベテランのご意見番でも、必要とあらば現場に出向く。担当者にとっても、心強い組織です。定期開催の総会では様々な意見が飛び交います。



平成18年南あわじ市南淡B&G指導者会設立



夏場はバーベキューでの情報交換

2. 指導者会から地域にうねりを!

地域では、社会体育に力を入れる団体が数多く存在します。指導者会では各種団体へのアプローチが必要不可欠であると考えます。例えば、南あわじ市スポーツ推進委員（旧体育指導員）対象の海洋レク講習会の開催、地元野外活動協議会や、総合型地域スポーツクラブとのタイアップ事業等、協働で事業を行い、色々なものを巻き込み、うねりをおこしていく。地域全体での社会体育の活性化を狙っています。



スポーツ推進委員対象の海洋レク講習会



地域スポーツクラブと合同実施した海洋教室

3. 今後の目標

指導者会のみならず、B&Gの強みは絆にあります。日本各地でのネットワークはもちろんのこと、地域においても様々な活動を行い、協力者、賛同者を見つけ、ガッチリとしたネットワーク作りを行う必要があります。そして、組織にも高齢化の波が寄せてきているので、応援隊のような若いボランティア組織を誕生させることが、今後の目標です。

指導員の個性や指導力を発揮「指導員研修会」

岡山県岡山市建部町B&G指導者会 代表 大谷 浩二
昭和55年設立 会員数:66名(AD25名、IN 5 名、LE31名、JL 5 名)

発表者: 大谷 浩二

1. 指導者会の特長

「建部町B&G指導員会」は昭和55年に設立。今年で27年目を迎える歴史ある指導者会です。活動は、水上スポーツの指導、着衣泳講習会をはじめとした安全指導を中心に、年間70回を超える活動を行っている。

指導実績 H23年度 76回／H22年度 64回／H21年度 75回 *会議、研修会を除く

2. 実施概要

年度	日 程	内 容	講 師
H24	4/21(土)	普通救命救急講習	岡山市消防局北消防署
H23	4/23(土)	OPヨット講習会	B&G指導員
	12/11(日)	子どものやる気を高めるメンタルトレーニング	川崎医療福祉大学 健康体育学科 准教授 田島 誠 氏
H22	4/24(土)	普通救命救急講習	岡山市消防局北消防署
	12/12(日)	少年期にやっておきたいトレーニング	日本体育協会 アスレチックトレーナー 石田 裕子 氏



「カヌー教室」指導の様子



「普通救命救急講習会」



「少年期にやっておきたいトレーニング」研修会



「子どものやる気を高めるメンタルトレーニング」研修会

3. 感想

「建部町B&G指導者会」では、年間に1人1回は活動に参加できるよう、一人の指導員に偏ることなく声かけを行い、みんなで活動を盛り上げるよう努力している。

また、同じ指導員資格において、それぞれ得意な分野があるので指導員の個性や指導力を発揮できる場所へ派遣している。

「指導員研修会」は、近年ではB&G指導員だけでなく、建部地域の学校関係・スポーツ関係等の方へも声かけすることにより、地域全体での青少年健全育成・スポーツ振興につながることを願い実施している。

第1回愛南町いやしの郷トライアスロン大会 運営協力

愛媛県愛南町御荘B&G指導者会 代表 清水 良一
平成18年10月1日設立 会員数:26名

発表者: 浜岡 邦之

1. 活動趣旨

愛媛県最南端の地、海の楽園「愛南町」で開催する「愛南町いやしの郷トライアスロン大会」は、愛南町特有の澄んだ海と穏やかな緑に触れるとともに、楽しく競技することを目指す。また、県内外から訪れるアスリートと町民との交流を図り、「愛南町」の魅力を県内外に広くPRし、ご来町のきっかけとなる大会を開催する。

2. 実施概要

- 日 時** 平成24年 6 月 9 日(土) 13時から競技開始
- 場 所** 愛媛県南宇和郡愛南町 船越地区周辺
- 参加人数** 196名(うち女性17名)
完走者数:179名(うち女性15名)



【スイム班全体での打合せ】みんな真剣です!!



【スイムレース】みなさん力強い泳ぎです!!



【スイム部門定点監視】参加選手の安全を守ります。



【参加した指導者会のみなさん】お疲れ様でした!!

3. 感想

愛媛県初となるJTU（日本トライアスロン連合）公認大会に、全国各地から多数の選手に参加いただき、愛南町の自然を身をもって体験してもらいました。大会は、事故も無く無事に終わり、参加者からは、「来年もまた来ます。」との声をたくさんいただきました。今後もB&G指導者会として、スポーツイベントなどへ積極的に参加し、協力していきたいと思ひます。

クリーンキャンペーン in 太良

佐賀県太良町B&G指導者会 代表 野口 士郎

平成23年7月17日設立 会員数:18名

発表者: 織田 渉良

1. 活動趣旨

佐賀県内の海洋センター及び海洋クラブで日頃活動している青少年を対象に、海洋性レクリエーションに親しむ機会を提供するとともに、自然体験活動の積極的な推進を図るため、有明シーバードと連携し「水の事故ゼロ運動」を展開することにより、海洋性レクリエーションの普及、水辺地域の事故防止の意識付けを図る。

2. 実施概要

日 時 平成24年8月20日(月)

場 所 佐賀県太良町B&G海洋センター

参加人数 150名



有明シーバード発足式



マリンジェット試乗



ロープワーク



ゴミ拾い

3. 今後の取り組み

日本財団が全国展開している「シーバードジャパン」（特定非営利活動法人 日本青バイ隊）の一環とし、「有明シーバード」（佐賀県太良町）が発足されました。東日本大震災の被災者救助の現場では、多くの水上バイクが活用され、約100名の命が救われた実績もあります。

太良町指導者会の会員の多くが「有明シーバード」にも所属し、現在は、保有する3艇の水上バイクを活用しながら海上保安庁との合同パトロールを実施するなど、全国初の行政との連携として、この取り組みを全国へ発信出来ればと願っています。

今後は地元の消防署員もメンバーとして加わる予定があり、シーバードジャパンとの連携をより一層深めながら、「水の事故ゼロ運動」を推進し、水辺の安心・安全を地域で守っていきたいと思います。

長島海峡横断大会と指導員協力体制

鹿児島県長島町B&G指導者会 代表 竹之内 逸郎
平成21年2月13日設立 会員数:20名

発表者: 脇田 高洋

1. 活動概要

長島町指導者会は、平成21年2月13日に、7名の有資格者と事務局長（海洋センター所長）を含む8名で設立。昭和61年より実施しているカヌー長島海峡横断大会等、海洋センター事業に積極的に協力。指導者会としても、平成21年度より、グラウンドゴルフ大会、子ども海レク交流大会、ふるさと学舎in獅子島など、活動助成金を活用し各種事業を実施している。

2. カヌー長島海峡横断大会の歴史

カヌー長島海峡横断大会は、『郷土長島の自然に親しみながら、海洋性スポーツを通じて、青少年のたくましい心身を養う』ことを目的に、昭和61年から実施され、平成24年までに累計1,182名が参加。当初はカヌーとカッターを使用した2時間ほどのレースであったが、第2回大会からカヌーのみとなった。第4回大会では、NHKによるTV放映が行われ、翌年、第5回大会では、総勢60人が参加し、民放『独占女の60分』による密着取材及びTV放映が行われた。その後も、指導者の熱意により毎年開催し、過去26回のうち、横断できなかった年は4回、臨時コースでの開催1回、湾内レース大会2回があった。



子ども海レク交流大会：低学年のカヌー体験



カヌー指導



カヌー長島海峡横断大会



ふるさと学舎：シュノーケリング

3. 指導者の協力体制

以前は事業実施時のセンター担当者のみが主体となった運営であったため、人員確保等に苦勞する部分が多かったが、平成21年の指導者会発足により、過去に携わってきた指導員全員が積極的に協力できる体制が整った。連絡調整等も円滑化し、長年の経験から培われたノウハウの伝承も進み、指導員のスキル向上にも繋がった。

今後は、更にこの良い関係を発展させ、鹿児島県連協及び南九州ブロック連協の事業にも積極的に参加・協力していきたい。

■ 次の 50 年へ。ソーシャルイノベーションのハブとして。



2012 年 10 月 1 日、日本財団は設立 50 周年を迎えました。私たちはこの節目に、活動理念・活動領域・活動指針を見つめなおし、新たなビジョン、新たなロゴのもと、次なる 50 年へと進んでまいります。

この 50 年で、社会問題への取り組みは大きく変わりました。地球規模の環境問題や資源問題、食料問題など、一国では解決できない課題が増えるとともに、国内では、高齢化やコミュニティの希薄化、育児環境など、自治体や公的機関の対策だけでは不十分な問題が次々とあらわれています。その一方で、NPO や企業の CSR など、課題解決に取り組む新たな力、新たな潮流が生まれてきました。東日本大震災をひとつの契機として、市民の社会参加意識もかつてないほど高まっています。

日本、そして世界。117 の国々で社会貢献活動の最前線を走ってきた豊富な経験とネットワークをいかして。日本財団は、あらゆる立場を超え、組織・人材・ノウハウ・資金をつなぎ、社会に「化学変化」をよびおこすハブになります。

たとえば、市民にもっと気軽なドネーションのしくみを。たとえば、企業に CSR のコンサルティングを。たとえば、複数の NPO を横断するプロジェクトを。

人を、団体を、活動をむすぶことで、ソーシャルイノベーションの輪を次々とひろげ、「みんなが、みんなを支える社会」をつくっていく。それが、次の 50 年に向け私たち日本財団の目指すものです。



DONO IRO
SUKI NANO?

www.boatrace.jp



Battle of 6
BOAT RACE

BOAT RACE 振興会

活動方針・活動目標(案)

平成25年～平成27年



活動方針

未来を担う子どもたちのために “育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”

B&G全国指導者会会員は、「未来を担う子どもたちのために」を基軸とし、“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の行動指針のもと、指導者としての経験や高度な技術、指導力を活かし、日本全国での「自然体験活動」や「水辺の安全教育」の推進、未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の実現に向け、会員が一致団結し、青少年の健全育成に努めることを活動方針とする。

活動目標

1 組織力の強化・地域社会との連携

- 全国指導者会の組織基盤を確立し、B&G地域指導者会の100%設置を達成する
- 地域との連携を強化し、地域住民の健康づくりに貢献する

2 生きる力を育てる自然体験活動等のさらなる実践

- 自然や水とふれあう中から、子どもたちに生きる力を気付かせる
- 自然体験活動等や水辺の安全教育を通じて、親子等の交流の場を提供する

3 海洋センター等の有効活用・活動の活性化

- 海洋センターを始めとする施設を活用し、利用者拡大、活動を活性化させる

4 指導者の資質向上

- 最新技術や知識を常に取り入れるアンテナを持ち、自己研鑽に励む
- レベルアップ研修会等を活用し、指導力を向上させ、実践に活かす

5 指導者会の情報ネットワーク構築

- B&Gと連携し、より強固な指導者会の情報ネットワークを築く

6 有益な情報発信と活動の周知

- 会報「かわら版」を発行し、メディア・会員等に有益な情報を発信する
- 各種媒体を使い、全国指導者会・B&G指導員の活動を周知する

7 全国指導者会シンボルマークの普及と活用

- 新たに決まったシンボルマークを有効活用し、普及に努める